

当院では ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンの 接種をお勧めします

1 日本におけるHPVワクチンの現状について

HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス感染を予防するワクチンです。2013（平成25）年4月にHPVワクチンの定期接種が開始され、小学6年生から高校1年生に相当する年齢の女子に3回接種を行うことになりました。しかし日本国内でこのワクチン接種後に、持続する疼痛や運動障害など多彩な症状が多数報告されるようになり、2013年6月に厚生労働省はワクチン接種とこれら症状との因果関係について国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種の積極的勧奨を差し控えることを決めました。それから7年が経過した現在でも積極的勧奨は再開されていません。接種を希望すれば定期接種として接種を受けることはできますが、接種者数は低迷し、接種中止に近い状態となっています。

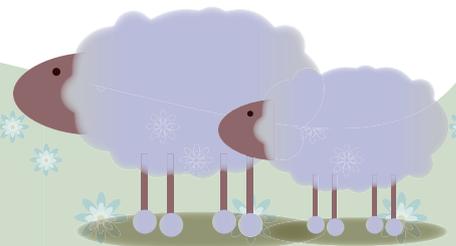
2 HPVワクチンの安全性について現在どのように考えられているのでしょうか？

厚生労働省の研究班による全国調査で、HPVワクチン接種歴のない女子でも、HPVワクチン接種歴のある女性に報告されている症状と同様の「多彩な症状」を有する者が一定数（12～18歳女子では10万人あたり20.4人）いることが2016（平成28）年12月に報告され、HPVワクチン接種後に特有な症状では必ずしもないことが示されました。またHPVワクチン接種後の健康被害として報告されているさまざまな症状は、HPVワクチン接種によって増加する傾向はないという別の調査結果も出ています。さらにWHO（世界保健機関）はHPVワクチン接種の推奨を変更しなければならないような安全性の問題は見つかっていないとし、今の日本の状況について強い懸念を示しています。

3 子宮頸がんの最近の動向はどうなっていますか？

日本では毎年約10,000人の女性が子宮頸がんを発症し、約3,000人が死亡しています。特に20歳～30歳台の若い世代で患者数が急激に増加しており、HPVワクチン接種と子宮頸がん検診率の向上が急務となっています。HPVワクチンをいち早く導入した欧米諸国では、ワクチンの有効性を示すデータが続々と報告され、世界中で最も子宮頸がん予防に力を入れているオーストラリアでは、現在の予防対策（HPVワクチン接種と検診）の継続により2028年には子宮頸がんを排除できると予測まで出しています。

裏面に続く・・・>



当院では ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンの 接種をお勧めします

4 HPVワクチン接種のリスクは？

日本で使用されているHPVワクチンは、子宮頸がんの主な原因であるHPV16型、18型の子宮頸部の細胞への感染を防ぎ、将来的に少なくとも70%の子宮頸がんの発症を予防できるとされています。ワクチンを接種しなければ、当然のことながら予防可能な子宮頸がんにかかるリスクがあります。一方、ワクチン接種には生体にとって不利益な反応（有害事象）が付きものです。有害事象には、ワクチンとの因果関係が否定できないもの（副反応）とワクチンとの因果関係のないもの（偶然の事象）が存在します。HPVワクチン接種後の局所の痛みや腫れ、失神、アナフィラキシーなどは副反応と考えるとよいでしょう。積極的勧奨の差し控えのきっかけとなったHPVワクチン接種後の「多彩な症状」については、HPVワクチンの接種歴がないものにも同様な症状を有するものが一定数いるとなるとどうでしょうか。HPVワクチンそのものにその原因を全て押し付けてしまってよいのか疑問が残ります。ワクチンを受けるかどうかは、接種しないで子宮頸がんにかかるリスクと接種によって生じるかもしれない副反応のリスクとのバランスを考えて判断してください。積極的勧奨の差し控え期間中に安心してワクチン接種が受けられる体制も整えられてきました。どうか子宮頸がんを予防する機会を逃さないようにしてあげてください。

5 定期接種として接種を希望する人はどうすればよいですか？

接種対象者は、小学6年生から高校1年生に相当する年齢（標準的な接種年齢は中学1年生）の女子です。2020（令和2）年度の対象者は2004（平成16）年4月2日から2009（平成21）年4月1日生まれの女性です。お住いの区域を管轄する保健予防課又は碑文谷保健センターにお問い合わせください。目黒区以外にお住いの方は、お住いの自治体にお問い合わせください。接種を希望される方には、予診票が送られてきます。法定接種年齢の期間内に接種を受ければ無料です。自由が丘メディカルプラザ小児科でも接種は可能です。

子宮頸がんの予防にはワクチン接種と子宮頸がん検診が必要です。20歳を過ぎたら区が実施する検診も定期的に受けましょう。

2020年5月26日
日本小児科学会認定専門医
齋藤 義弘

